

都市像実現のための7つのテーマ

基本理念と将来像に沿ったまちづくりを進めるために、以下の7つのテーマを設定し、その実現に向けて戦略的に施策を進めます。

①まちの中心・シビックセンターの整備

将来にわたってまちの中心核となるシビックセンター（市役所）の機能と景観・空間を整えます。

④駅周辺におけるもてなし交流拠点の整備

備中高梁駅を「もてなし交流拠点」と位置づけ、バリアフリー化や交通機能、情報提供力の強化を図るとともに、駅周辺環境の整備を行います。

⑥学びと文化のまちの形成

あらゆる世代が学び合い、様々な文化が育まれる学園文化都市づくりを進めます。

②生活空間としての街なか再生

空き家や空き店舗などの既存ストックの活用を中心とした居住機能の提供、多世代の生活を支える各種機能の充実を図ります。

③人の回遊を支える便利で楽しい移動環境の形成

まちなかを自由にめぐることができ移動環境を整え、また回遊を促す仕掛けをつくることで、地域全体のにぎわいの創出を図ります。

⑤歴史的環境の保全・活用とおもてなし

歴史的町並みの保全、活用を推進し、「また訪れてみたいまち」を目指します。

⑦公・民・学の連携によるまちづくりの推進と人材育成

行政、NPO、市民、民間事業者と大学が連携し、一体となり推進します。

文化が息づく、潤いのあるまち

基本理念

- 1 生活者が愛着と誇りを持てるまちづくり
- 2 高齢者が生き生きと暮らせるまちづくり
- 3 若者の活力を育み生かすまちづくり

エリア、拠点・軸に分けた計画推進



効果的・効率的にまちづくりを進めるために、計画区域内に左図のようなエリア、拠点・軸を設定し、施策を進めていきます。

エリア	形成方針
街なか生活エリア	都市の生活を支え、活力を高める施策を重点的に展開するエリア
街なか生活コアエリア	街なか生活エリアのうち、教育・福祉・買物・文化・交流・行政等、都市の中心的な機能の集積促進や、空き店舗等の活用によりにぎわいと活力を創りだすエリア
歴まちエリア	歴まち事業を通じて、歴史的風致の維持・向上に向けた各種事業に取り組み、高梁ならではの都市環境を創りだすエリア
歴まちコアエリア	歴まちエリアのうち、歴史的町並みの保全・活用や環境整備を重点的に図ることで、広域からの観光・交流のコアとなるエリア

拠点・軸	形成方針
シビックセンター	市の行政サービスの拠点機能、街なか回遊の中継拠点機能、屋内外での創造的交流空間を備えた総合的なシビックセンターとしての都市機能の充実を図ります。
もてなし交流拠点	交通結節点としての利便性と情報発信機能、待合環境を充実させ、交流拠点としての環境づくり、駅前広場・周辺の修景によるまちの玄関口としての顔づくりを進めます。
賑い・交流軸	街なか回遊の拠点軸として、市民の交流の場としての環境整備を進めるとともに、日常生活を支える利便性の高い魅力のある商店・商店街づくりを進めます。
教育・福祉拠点	教育活動を通じた交流や、市民の文化・福祉活動を支える街なか拠点としての環境整備を図ります。
文化・交流拠点	市民の学習・文化活動などを通じた交流を支援する都市機能の充実を図ります。
歴史・交流軸	歴史的町並みと水面、桜・柳の並木と調和した紺屋川筋の情緒豊かな一体的環境を保全するとともに、観光・交流の拠点軸としての機能充実を図ります。

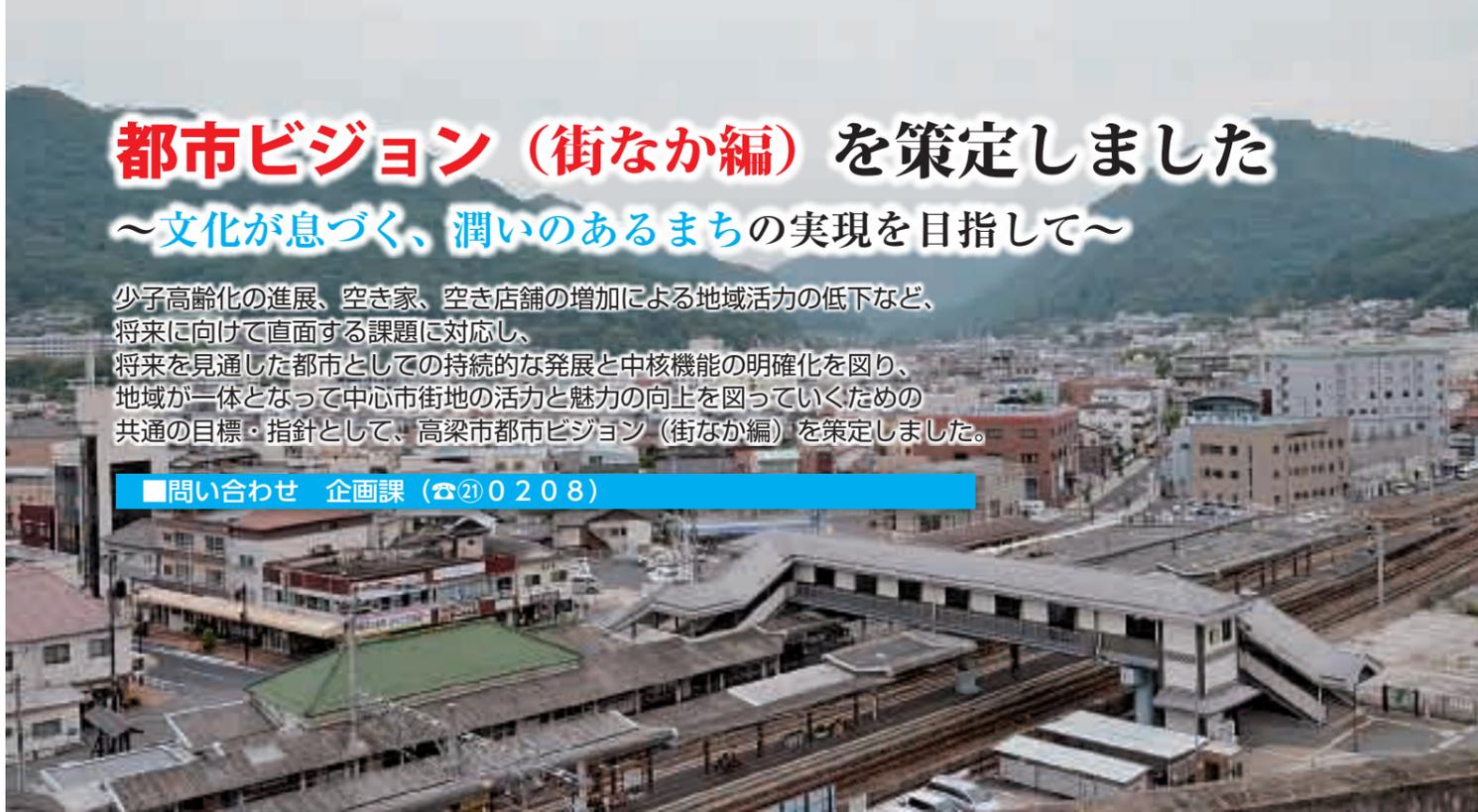
※詳細は、市ホームページをご覧ください。

都市ビジョン（街なか編）を策定しました

～文化が息づく、潤いのあるまちの実現を目指して～

少子高齢化の進展、空き家、空き店舗の増加による地域活力の低下など、将来に向けて直面する課題に対応し、将来を見通した都市としての持続的な発展と中核機能の明確化を図り、地域が一体となって中心市街地の活力と魅力の向上を図っていくための共通の目標・指針として、高梁市都市ビジョン（街なか編）を策定しました。

■問い合わせ 企画課 (☎210208)



対象エリア

本ビジョンの対象エリアは、高梁川沿いに広がる高梁市の中心部、城下町時代からの旧市街地ならびに駅周辺を中心に広がる新市街地の両方を含む都市計画区域を対象とします。

そのうち、特に都市の生活を支え、活力を高める施策を重点的に展開するエリアを「街なか生活エリア」と位置づけます。

目標年次

計画期間は、短期的目標を2019年（平成31年）、また、長期的目標を20年後の2032年（平成44年）とします。

将来都市像

「住みたい」「住み続けたい」街の実現を目指し、街なかの将来都市像を「文化が息づく、潤いのあるまち」に決めました。また、生活する人の視点を重視した3つの基本理念をかげました。

目指す都市のイメージ

①備中高梁駅東側は都市計画街路等の整備により宅地開発が進み、新たな街なか生活エリアとなります。



②備中高梁駅および駅西側は、「もてなし交流拠点」としてにぎわい、駅から新市庁舎・商店街への循環が形成されます。栄町商店街を中心とする「賑わい交流軸」では空き店舗・空き家の再生が進み、中心市街地の活性化が図られます。また、空き家の活用等



により高齢者等にやさしい生活基盤が整備されます。



③「もてなし交流拠点」と「歴まちコアエリア」をつなぐエリアの回遊性が確保され、新市庁舎周辺を核とする「シビックセンター（市役所）」や「教育・福祉拠点」等の新たな都市空間の整備により付加価値が生まれます。



④幼保一元化施設や新図書館が整備され、「もてなし交流拠点」と「教育・福祉拠点」をつなぐ、新たな交流動線が形成されることにより、子育て世代や若者・高齢者の生活を支える機能が充実します。